

リンゴ早生種 ‘北の幸’

研究のねらい

‘祝’ に替わる早生種を育成する。

研究の成果

選 抜 理 由： ‘祝’ よりも食味と貯蔵性に優れた早生種として選抜された。

組み合わせ： ‘つがる’ × ‘祝’

交 配 年 次： 1959年（昭和34年）

登 録 年 次： 1981年（昭和56年） 5 月

命名の由来：当時の北村青森県知事が「北国に幸せを運ぶリンゴ」として命名した。

樹 の 性 質：樹勢は強く、裸枝になりやすい特徴がある。斑点落葉病には‘ふじ’より強い。
生産力は低い。

収 穫 時 期： 8 月下旬～9 月上旬であるが、熟期が不揃いで、収穫前落果があるので、2～3 回に分けてすぐりもぎをする必要がある。

果 実 特 性： 1 果重は200～250gで中玉、果形は長円形である。果色は紅色で縞がある。果皮は光沢がなく、スカーフスキン（白いかすりがかったような状態）が発生しやすい。また、つるさびが多い。果肉は黄白色で硬く、ち密で果汁が多い。食味は甘酸適和で良好である。貯蔵性は室温で2 週間程度、冷蔵で1 か月程度である。



発表資料

1. 山田三智穂編（1981）. リンゴ 日本と世界の品種. 青森県りんご協会. PP. 50-51.
2. 山田三智穂ら（1983）. リンゴ新品種‘北の幸’について. 青森りんご試報 20：1-12.